

特集 I ■母校の灯火が消える

～大平小学校の歴史に幕～

どう活かす？残る校舎

全国には、廃校を逆手にとって地域の活性化に結びつけている町や村が多くあります。幸い大平小学校は美しい自然に囲まれたすばらしいロケーションに恵まれています。現在、町ではいろいろ模索しているところですが、地域の活性化につながるよい活用の方法はないのでしょうか。

各地の校舎活用の事例

◆山口県美東町

小学校校舎を改修し「ふれあいセンター」として開設。青少年の健全育成の場、都市住民と地域住民の交流の場、地域産業と教育・文化の振興の拠点として活用している。多目的ホールがあり宿泊施設も完備。

◆山口県むつみ村

小学校校舎を社会教育施設として解放し、生涯学習（木工グループ、水墨画愛好会など）の場として活用。体育館は伝統芸能の神楽や太鼓の練習場として利用している。

◆山口県川上村

廃校になった小学校校舎を、精神薄弱児（者）が利用しやすい野外活動訓練施設「杉の子村」として改修し、外出・外泊訓練や地域との交流を行っている。

◆島根県匹見町

高校の分校校舎を「木を活かしたまちづくり」のシンボル施設として改造し、ウッドパークを建設。木工加工品の展示、販売を中心として、研修会場などにも利用され、産業振興、観光、都市交流の総合的情報発信基地となっている。

◆北海道幌加内町

森と湖の豊かな自然が残る地域にある小学校校舎を、宿泊もできる町直営の林間学校施設として活用。自分たちが目的をもって研修、学習に使用し、使用後は自ら清掃、後片づけを行う。一泊700円。風呂は五右衛門風呂を設置し、人気を集める。

◆福島県南郷村

小学校校舎を「南郷ふるさとの家」として開設。近隣市の青少年の合宿や研修会として利用され、村の青少年との交流が活発化。年間約2千人が利用。

◆新潟県吉川町

スカイスポーツを中心とする観光開発の中で、宿泊施設「体験と創造の館」として小学校校舎を利用。7千6百万円余りをかけて改造、宿泊人員32人。年間利用者は6千4百人（平成五年度）。

<p>五年 松永 和子</p> 	<p>岡頭 明伸 先生</p> 
<p>一生懸命練習した日々とベルの音忘れられない。</p>	<p>桜の老木よ、君の刻んだ大平暦を私は忘れない。</p>
<p>六年 埴村 修</p> 	<p>六年 岡 佑多朗</p> 
<p>閉校記念秋季大運動会が楽しい思い出になった。</p>	<p>春のひざしが差しこむ大平に入学した日のこと。</p>
<p>六年 中野 理恵</p> 	<p>六年 松田 拓朗</p> 
<p>こてきをみんなで一生けん命がんばった。</p>	<p>連合体育大会で一生懸命がんばって走りぬけた。</p>
<p>五・六年担任 石田 恭二先生</p> 	<p>六年 村部 愛子</p> 
<p>よく遊び、よく走った楽しい五年間でした。</p>	<p>心をつつにがんばって築いた思い出ハンドベル。</p>
<p>事務 松岡 京子さん</p> 	<p>宮本 理恵子先生</p> 
<p>子供達を通して、いろいろな事を学びました。</p>	<p>保健室から見える油谷湾は絵のようでした。</p>
<p>藤井 純子先生</p> 	<p>村用 尾美恵子さん</p> 
<p>音楽室から望む秋色の油谷湾は、最高でした。</p>	<p>42の輝く瞳は、大平の海に美しく映える。</p>